

2300 遠隔計測監視システム シリーズ

仕様書

形名:2353 品名:LAN モジュール

■ 主な機能と特長

2300 遠隔計測監視システムを構成する通信モジュールで、パソコンやサーバ及び通信インフラと計測モジュールとの間に位置して、データの受け渡しを行う

- ・LAN 通信によるデータ収集が可能
- ・2351 無線通信モジュールと組み合わせて「無線⇄LAN 変換」することにより、LAN と無線の混在システムが構築可能
- ・計測現場での異常発生時にメール送信、またはネットワーク警告灯(※1)の制御が可能
- ・Modbus プロトコルに対応しており、プログラマブル表示器(※2)や SCADA ソフトとの接続が可能

(※1)…(株)アイエスエイ製 DN-1000 シリーズ

(※2)…(株)デジタル製 Pro-face

■ 外部インターフェース仕様

1 システム内に通信モジュール 89 台まで

※各通信モジュールに COM ID 設定

外部通信インターフェース:LAN

IEEE802.3 Ethernet 10BASE-T

コネクタ:RJ-45

■ 機器仕様

通信部

通信モジュール 1 台に計測モジュール 63 台まで

※各計測モジュールに MODULE ID 設定

内部通信インタフェース:CAN バス(500kbps)

接続方式:モジュールベース(2391 または 2392)に
接続

電源部

定格電源電圧:DC5V±0.3 V

接続方式:モジュールベース(2391 または 2392)に
接続することにより電源モジュール
(2361)より供給

時計部

時計機能:RTC 内蔵 (年、月、日、時、分、秒)

計測モジュールの内部時計を一定時間
間隔で補正

時計精度:±30ppm (0~50°Cにおいて)

バックアップ:時計 (リチウム電池使用)

※電池寿命は約 5 年(25°Cにおいて)

Modbus 通信機能

Modbus/TCP に対応した外部機器からの通信要求
を受けてデータを出力する

メール発報機能

配下の計測モジュールのアラーム状態を監視し、異
常発生/復帰時にメールサーバを経由してメール
を発報する

登録アドレス数:20 件まで

(LAN モジュール 1 台あたり)

発報アドレス数:4 件まで

(監視対象 1CH あたり)

監視対象:80CH

内部状態表示

POWER LED 表示

その他

アラームクリア:キー操作または通信による制御で、
計測モジュールのアラーム出力を
クリア

■ 設置環境

使用場所	室内
使用温度範囲	0~50°C
使用湿度範囲	80%rh 以下(結露なきこと)
保存温度範囲	-10~50°C
保存湿度範囲	80%rh 以下(結露なきこと)
使用高度	2000m 以下
使用周囲雰囲気	腐食性ガス、ひどい塵埃のない こと

■ 性能

最大定格電力:1.4 W

絶縁:なし

LAN コネクタ-CAN バス間は非絶縁

■ 付属品・オプション

付属品:なし

オプション:9642 LAN ケーブル

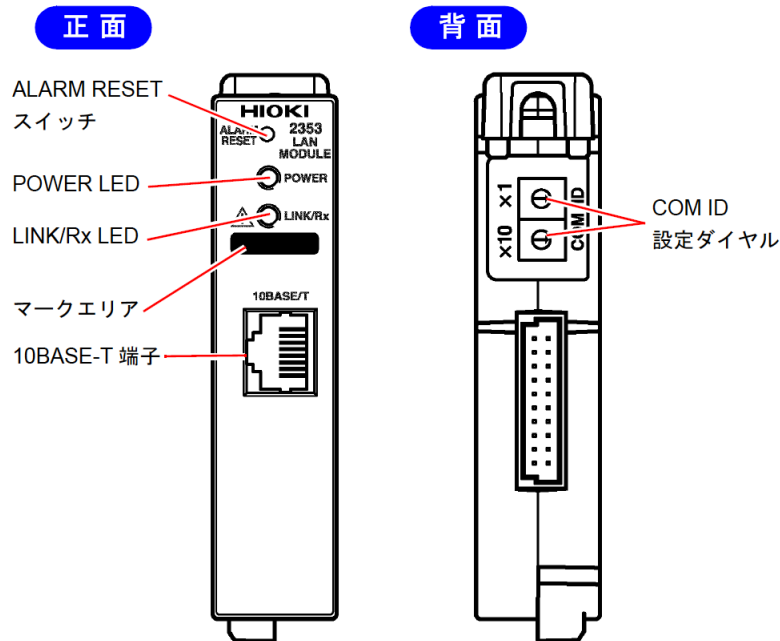
(ストレート、クロス変換コネクタ付属、5 m)

■ 適合規格

安全性:EN61010-1、汚染度 2

EMC:EN61326 CLASS A

■ 各部の名称と機能



POWER LED	本器に電源が供給されているとき、点灯または点滅します。本器の動作状態により、点灯・点滅、発光色が変わります。 POWER LED 表示 緑点灯：正常動作 黄点灯：アラーム出力中 赤点灯：回復“不能”な異常発生 ^{*1} 赤点滅：回復“可能”な異常発生 ^{*2}
LINK/Rx LED	本器の動作状態により、点灯・点滅、発光色が変わります。 ・ 緑点灯：リンク中 (LAN ケーブルが正常に接続されています) ・ 黄点滅：通信中
マークエリア	測定対象、COM ID などを覚え書きするためにご使用ください。 鉛筆で書くと、軽く拭き取るだけで消すことができます。
10BASE-T 端子	9642LAN ケーブルを使用してパソコンに接続します。
ALARM RESET スイッチ	アラーム出力を解除します。 1 秒以上押し続けるとアラームが解除されます。
COM ID 設定ダイヤル	本器に ID (認識) 番号を設定します。

*1: 修理が必要です。お買上店 (代理店) か最寄の営業所にご連絡ください。

*2: 通信モジュールが 2 台以上接続されている可能性があります。無線モジュール +LAN モジュールでご使用の場合は、LAN モジュールの COM ID を "00" に設定してください。

COM ID を設定する

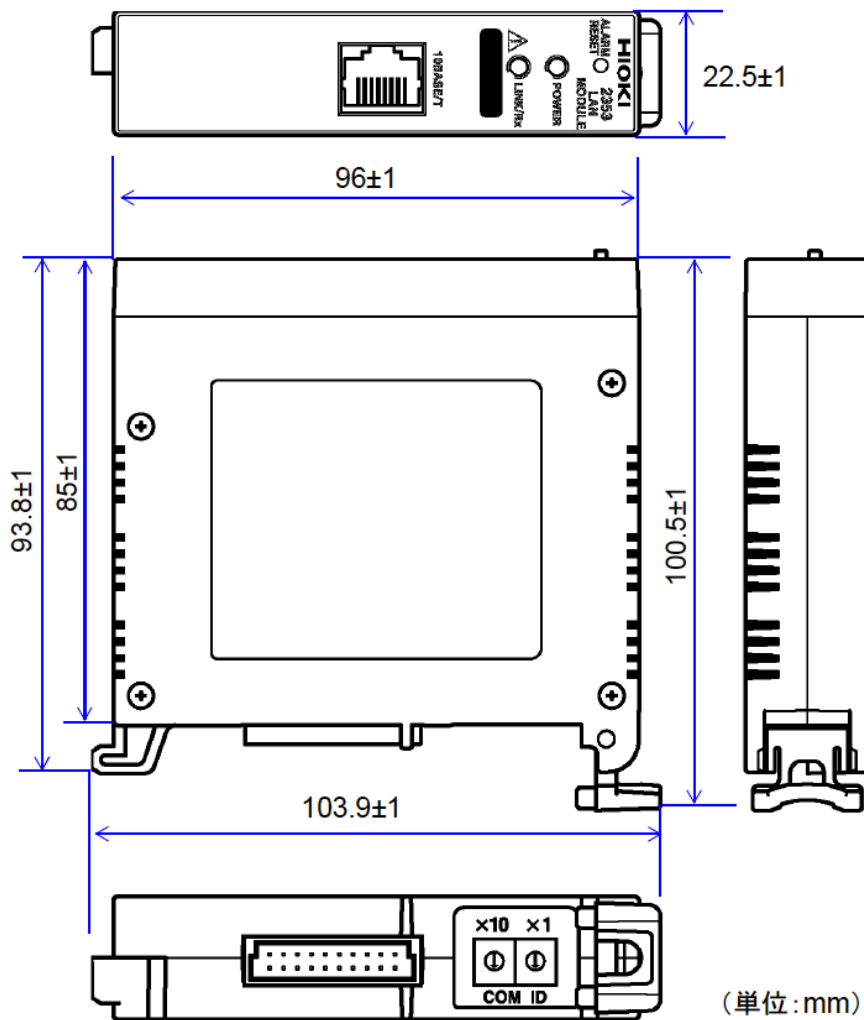
- ・COM ID 設定ダイヤルで本器の認識番号を 01～89 の範囲で設定します。
- ・1 台のパソコンが管理するシステムの下で、他の通信モジュールと重複しない値を設定して下さい。
- ・COM ID を 99 にして電源を入れると、本器の内部設定を工場出荷時の値にリセットできます。
- ・COM ID と計測モジュールの「MODULE ID」の値は重複しても構いません。

無線 ⇄ LAN 変換

2351 無線通信モジュールと 2353LAN モジュールとを組み合わせることで、無線親機を LAN 経由でパソコンに接続することができます。この時、「無線通信モジュール+LAN モジュール」のセットを通信モジュール 1 台と考え、通信モジュールの COM ID (1～89) を無線通信モジュールに設定します。

LAN モジュールの COM ID は 00 を設定します。

■ 外形寸法図

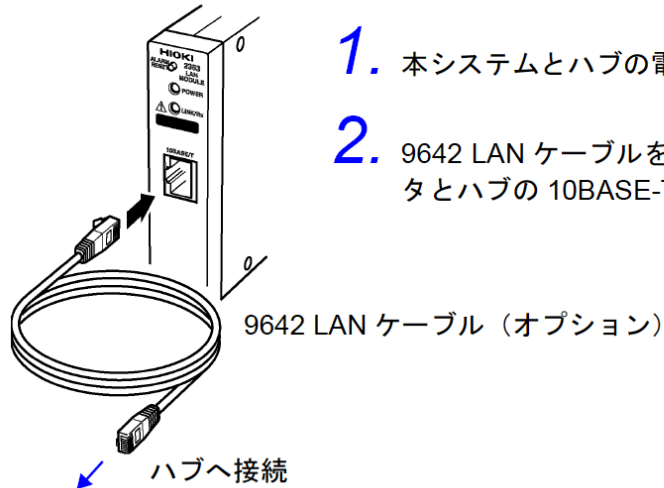


■ LAN ケーブルの接続

本器とハブを接続する

(本器をネットワーク接続して使用する場合)

本器とハブを 9642 LAN ケーブル (オプション) で接続します。

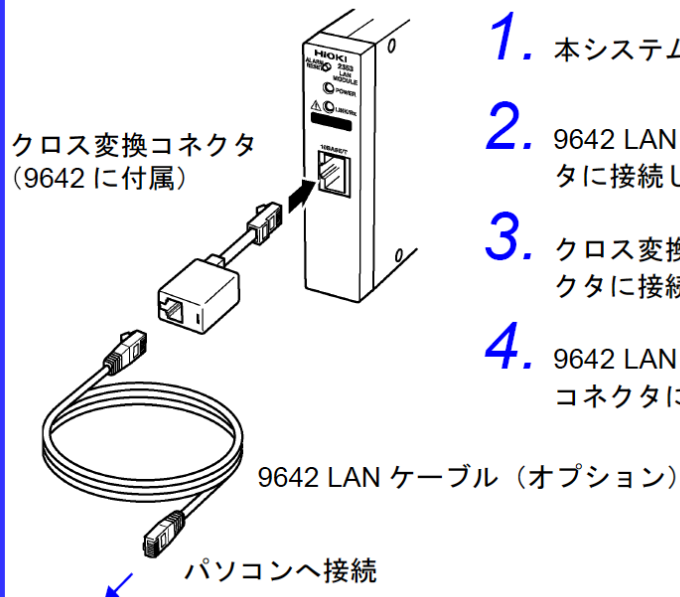


1. 本システムとハブの電源を OFF にします。
2. 9642 LAN ケーブルを、本器の 10BASE-T のコネクタとハブの 10BASE-T のコネクタに接続します。

本器とパソコンを接続する

(本器とパソコンを 1 対 1 で使用する場合)

本器とパソコンを 9642 LAN ケーブル (オプション) で接続します。



1. 本システムとパソコンの電源を OFF にします。
2. 9642 LAN ケーブルを付属のクロス変換コネクタに接続します。
3. クロス変換コネクタを本器の 10BASE-T のコネクタに接続します。
4. 9642 LAN ケーブルをパソコンの 10BASE-T のコネクタに接続します。